

おしえて！みぢかな生きもの

-稲城市生きものフォト調査-



「みぢかな生きもの情報」を教えてください！

稲城市では、「稲城市生きものフォト調査」として、市民のみなさまから広く市内の生きもの情報を募集し、市内の生きもの情報を収集・蓄積・活用していきたいと考えています。

お寄せいただいた情報は、稲城の自然の周知や学習、自然豊かで人と野生の生きものが共存するまちづくりなどに活用していきます。

みぢかな自然で生きものを見つけたら、教えてもらえませんか？
ご協力よろしくお願いします！



おしえてほしい情報

稲城市内で見つけた野生の動植物に関する次の情報を教えてください。

- ①動植物の「名まえ（種名）」
- ②見つけた（撮影した）「年月日」
- ③見つけた（撮影した）「場所」
- ④撮影した写真

※①～③は必ず必要な情報です。
※その他：天気、動物が何をしていたか（餌をとっていた、上空を飛んでいた、産卵していた など）

かんたん

●情報はインターネットから登録！

生きもの情報をお寄せいただく場合は、環境省の「いきものログ」のホームページから情報を登録してください。スマホから登録できる「いきものログ・アプリ」（要事前登録）もあります。

詳細は「市民調査マニュアル」（下記）、または環境省の「いきものログ」ホームページ（左記）をご参照ください。



環境省「いきものログ」へGO! (→)



いきものログ



市民調査マニュアル「稲城市生きものフォト調査」を作成しました！

身近な自然に出かけて生きものを観察するときの、基本的な準備や注意事項、稲城市で見られる生きもの見分け方の例などを掲載した調査マニュアルを作成しました。

市ホームページからダウンロードしてご利用ください。
※詳しくは市ホームページ「サイト内検索」で検索！

🔍 検索の使い方 生物多样性 🔍 検索

生物多样性いなぎ戦略 - 概要版 -



平成27年3月に策定しました「生物多样性いなぎ戦略」の概要をご紹介します。

生物多样性キャラクター
クマ-応援団員
稲城なしのすけ

©K.Okawara・Jet Inoue



■戦略の対象地域 稲城市全域

※国、東京都、近隣自治体、多摩川や多摩丘陵などの関係自治体など、課題を共有するエリアとの連携・協働・広域ネットワークも視野に入れて施策を検討・推進します。

■戦略の期間 平成27年度～平成36年度の10年間

■基本理念

いのち
つなげよう！いなぎの生命 伝えよう！ともに生きる力

わたしたちは、多種多様な生きものが生息する地球上の「生命（いのち）のシステム」の一員です。「いなぎの生命（いのち）」を守り、育て、日々の暮らしの中でできることを考え、「ともに生きる力」を未来に伝えることによって、地域の自然と歴史文化が調和した持続可能で美しい稲城市をめざします。

■ 戦略の目標

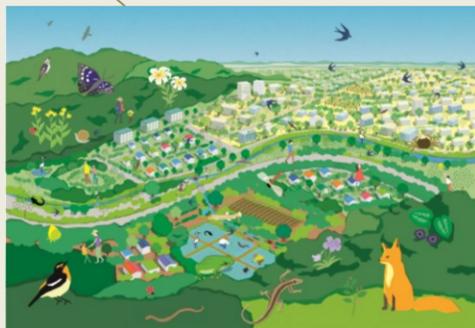
生きものの多様性を将来にわたって持続的に守り、活かしていくためには、自然環境を「量」と「質」の両面から保全・改善するとともに、「自然と私たちの暮らし・社会とのつながり」を再生していくことが不可欠です。

「生物多様性いなぎ戦略」がめざす目標として、次の2つの目標を掲げます。

目標1 「将来のまちの姿のイメージ」(最終目標)

稲城市が最終的にめざす「将来のまちの姿のイメージ」で、自然と私たちの暮らし・社会とのつながりを再生することが目標です。

● 自然環境の保全・再生のイメージ



豊かな自然が保全・ネットワーク化され、多様な生きものが身近に生息しています。

● 自然と経済活動をむすびつけるイメージ



豊かな自然を活かし守る経済活動が盛んに展開されています。都心から近い自然豊かなまちとして、住民に選ばれています。

● 自然を活かした学習・教育のイメージ



豊かな自然を活かし「生きる力」をはぐくむ環境教育のモデル都市として全国に知られています。

● 自然と暮らしが調和するイメージ



自然と共存する持続可能な社会が実現しています。市民は自然がもたらす恩恵を理解し、暮らしなどの中に、生きものへのちょっとした思いやりがあります。

イメージできれば、
実現できる！
みんなで目標を共有し、
実現をめざそう！



©K.Okawara・Jet Inoue

みぢかな稲城の自然



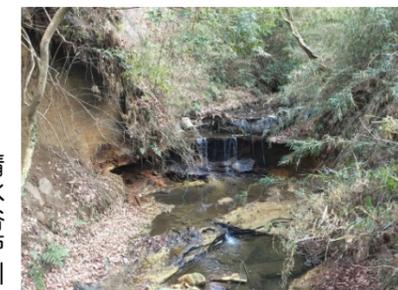
©K.Okawara・Jet Inoue

稲城に生息する多様な生きもの
の一部をご紹介します。
何種類わかるかな？
何種類見たことがあるかな？

こんな場所でさがしてみよう



大丸用水



清水谷戸川



近所の公園



家の庭や生垣

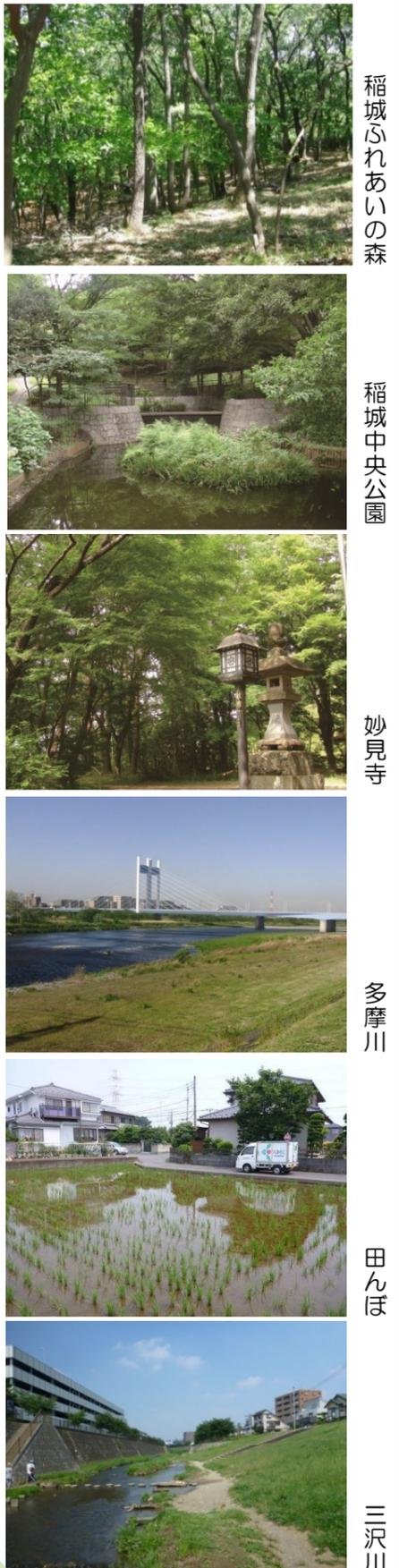


人間以外にも、たくさんの生きものが暮らししているんだね！

魅力いっぱい

発見いろいろ

さがしてみよう!



稲城ふれあいの森

稲城中央公園

妙見寺

多摩川

田んぼ

三沢川



写真出典:(無印)稲城市内で撮影/(*)市民提供/(**)(公財)日本生態系協会

目標2 将来のまちの姿を着実に実現するための10年後の達成目標

最終目標である「将来のまちの姿のイメージ」の実現に向けた10年後(平成36年度)の達成目標として、自然の「量」と「質」の両面からの目標を掲げます。

自然の量の目標 **緑被率 約50%**

【緑被率】航空写真をもとに樹木・樹林、草地、農地など植物に覆われた面積の市面積に占める割合

自然の質の目標(その1) 稲城の自然の特性を示す指標種(シンボル生物)として、次の3種類の継続的な生息を目標とします。

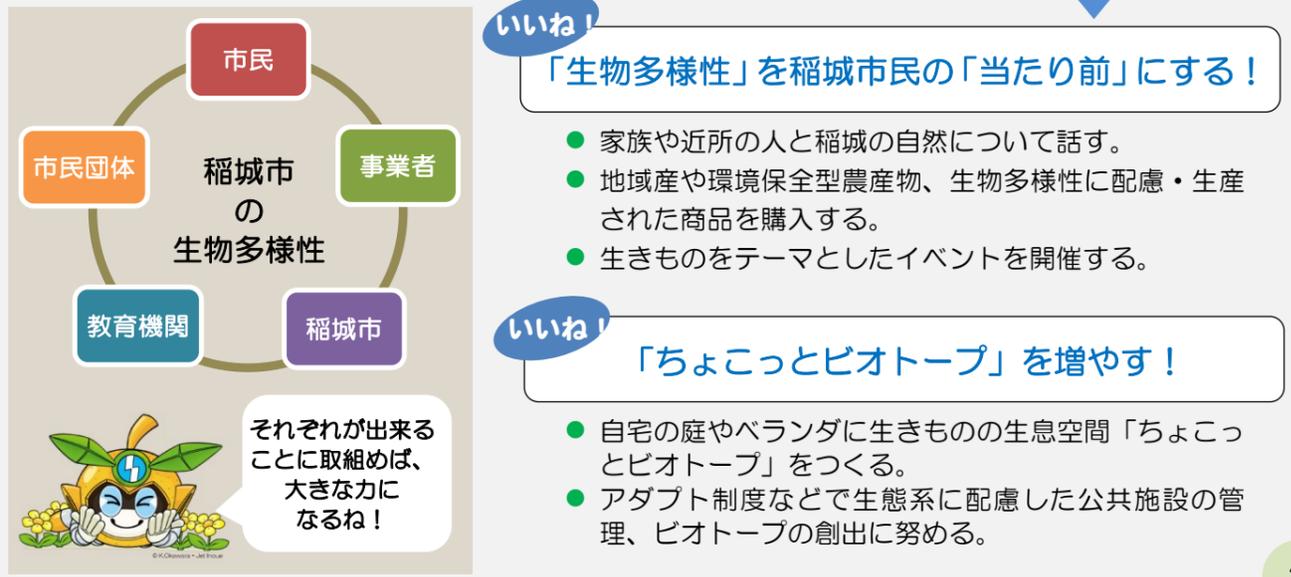
キツネ()** **オオムラサキ(**)** **カエル類(**)**

自然の質の目標(その2) 稲城市の特徴を反映した5タイプのビオトープ* (樹林地、水域・水辺、農地、草地、まちなか)の保全

※ビオトープ(Biotope):環境特性で他の空間と区別される、野生の生きものが生息・生育する空間の最小単位のこと。
(**)写真出典:(公財)日本生態系協会

■はじめてみよう!生物の多様性への「ちょっとした思いやり」

「生物の多様性の保全」には、「市民」「事業者」「教育機関」「市民団体」「行政」など市民全員が、毎日の暮らしや営みの中で「ちょっとした思いやり」を持つことが必要です。「ちょっと」もつながれば「大きな思い」になる!
たとえば、こんな「ちょっとした思いやり」をはじめませんか?



■目標実現に向けた「4つの基本方針」と「35の施策」

目標実現に向けた基本的な考え方として、次の4つの基本方針＝4つの「当たり前」を掲げ、基本方針に基づく以下の各具体施策の推進をはかります。

※「当たり前」とは、日々の生活、考え方、行動の中に、意識しなくても生物多様性への配慮がおりこまれているような状態のことを指します。

基本方針	施策テーマ	施策
【基本方針1】 多様な生きものが 生息・生育する 空間づくり	(1)今ある自然を守る	① 自然環境の担保性の向上
		② 野生動植物などの保全
		③ 水辺環境の保全
		④ 土壌環境の保全
		⑤ 外来種対策をはかる
	(2)自然の質を高める	① 緑化における在来種の活用による地域遺伝子の保全
		② 里山林の維持管理・再生
		③ 公園・街路樹などにおける生きものに配慮した維持管理の実施
		④ 生きものも生息するゴルフ場との連携・協働
	(3)自然を新たに育て ・つなぐ	① エコロジカル・ネットワークの形成
		② 水域・水辺の連続性の保全・再生
		③ 開発事業などを通じた自然環境の創出
		④ 生きものの移動に留意した道路などの整備
		⑤ 企業敷地や個人宅の庭などにおけるビオトープの創出
	(4)自然を守り育てる しくみを活かす	① 保全・維持管理のしくみづくり
		② 財源の確保
③ 生物多様性の評価・認証制度の活用		
【基本方針2】 自然を守り ・育て・活かす、 場づくり	(1)教育・学習の拠点 をつくる	① 生きものをはぐくむ校庭・園庭の整備 ② 環境学習、自然環境保全活動拠点の整備・充実
	(2)自然とのふれあ い・学びの場をつくる	① 自然にふれあえる水辺の整備・活用 ② 自然を活かした環境教育や学習フィールドの整備・活用
【基本方針3】 自然を守り ・育て・活かす、 人・情報づくり	(1)自然への関心・理 解を広げ高める	① 生きもの情報の収集・蓄積・活用
		② 生物多様性・自然に関する情報の発信
		③ 外部評価の活用
	(2)人材を育て・活か す	① 学校教育における自然環境学習の推進
		② 市民活動・企業などによる生物多様性保全活動の活性化
		③ 大学・企業などとの連携による自然環境の保全・活用の推進
【基本方針4】 自然を守り ・育て・活かす、 暮らし方・地域 社会づくり	(1)自然と経済を 結びつける	④ 自然を守り・伝える人との連携
		① 消費活動を通じた生物多様性への貢献の推進
		② 農地の保全・環境保全型農業の推進
		③ 自然資源を活かした産業の振興
	(2)暮らしのあり方を 変える	④ 自然資源を活かした観光の推進
		① 地球温暖化対策の推進
		② ごみの不法投棄、ポイ捨ての防止
		③ 水域における水質などの保全

“生物多様性”ってなんだろう？



「生物多様性」ってなに？



食う・食われるの関係で多くの生きものがつながる「生態系ピラミッド」。「生態系」によって構成する生きものの種類も違ってきます。



そういえば、人間も「人」という同じ種の生きものだけど、一人ひとり体型、髪や目の色、声、性格、得意なことなどが違うね。

生きものは、基本的に「水」「大気」「土」「太陽の光」がないと生きていけません。そして、これら4つの要素を土台に、すべての生きものが、食べる・食べられるということを通じてつながっている関係を「生態系」といいます。

そして、生態系を構成する生命一つひとつには個性があり、生きものたちの個性とさまざまなつながりのことを「生物多様性」とよんでいます。

3つの多様性

■「生態系」の多様性

森林、河川、湿原、干潟、砂漠、サンゴ礁など、気候や地形・水分条件など、その土地の条件にあった、さまざまな生態系があります。

■「種」の多様性

動物、植物から菌類などの微生物まで、異なる生態系ごとに異なるたくさんの種類の生きものがいます。

■「遺伝子」の多様性

同じ「種」でも、遺伝子が異なると、姿・形や声、行動などが違います。

「生物多様性」はなぜ大切なの？

わたしたち人間も「生きもの」として、さまざまな種類の多くの生きものがいること、生物の多様性によって、多くの「恵み」=生態系サービス（下表例参照）をうけ、支えられています。「生物の多様性」は、わたしたちの「生存基盤」として、とても大切なのです。

【さまざまな「恵み」=生態系サービスの例】

	食べもの、着るもの、水、家の材料、燃料、農作物の原種、医薬品の原料、染料など、生きるために必要なものを提供してくれます。
	気候の調整、水質浄化、花粉媒介、病害虫のコントロールなど、さまざまな調整を行っています。
	生物が多様であることによって、多くの生きものの生息・生育環境の提供、遺伝的多様性の維持がはかられます。
	緑や風、波の音や鳥の声は、精神的ないやしを与えるほか、文化・芸術や子どもの健全な心身を育てます。